



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝える当連載。第20回はジュニアゴルフの教育についてのお話です。

家族のサポートあつてのジュニアゴルファー。

先日イギリスのスポンサーシップ関連のサイトを見ていて目にとまったのが、ヘイデン君という6歳のジュニアゴルファーのスポンサー募集メッセージでした。6歳の男の子にスポンサー？と読み続けてみると、ヘイデン君はアメリカのサンディエゴで開催されるジュニアワールドゴルフチャンピオンシップのチームに選ばれたものの、旅費がなく参加できない窮状を訴えたものだったのです。

現在男子ゴルフのトップに君臨するロリー・マキロイもこのヘイデン君のように子どもの頃から注目を集めていましたが、両親が副業をして、レッスンや競技会に参加するための資金を捻出していたのは有名な話で、世界中で美談として扱われていました。今のトッププロたちも同様に家族のサポートがあつて現在の成功をつかんでいるといつても過言ではないのです。

日本ロレックスのスポンサーを受けて、当社でもしばらく日本でジュニアの大会をお手伝いしていました。国内各地での予選をかくぐつた精鋭が決勝大会に集まってきましたが、ほとんどの選手は両親や祖父、祖母に連れられての参加でした。ジュニアゴルファーが日本で本格的に用

具を整え、レッスンや練習ラウンドをこなして各トーナメントに参加するとすると毎月3〜30万円はかかるのだそうです。そのために家業を手放し、フルタイムでジュニア選手をサポートしている方もいます。

お隣の韓国ではジュニアゴルファーのためにその家族が環境の良い海外に移住してしまうケースも多くあります。確かにその結果、LPGAの女子ツアーでは上位に大勢の韓国の選手たちが名を連ねていますよね。

親たちの過大な期待で子どもがゴルフから離れる。

アメリカでも事情は同じですが、最近問題になってるのは親が子供の競技会でエキサイトしてしまい、見かねてつまみ出される「モンスターパーアレンツ」つまり熱血パパ(ママ)たちだそうなんです。親たちの熱烈な期待を受け、多くのジュニアゴルファーが重圧のために、中学を卒業する前にバーンアウト、つまり「燃え尽きてしまひいゴルフから離れてしまっているのです。これはアマチュアスポーツ全般に言えますが、アメリカではバスケットボールやアメフト、ヨーロッパではサッカーなどに及ぶ、一種の社会問題になっているようです。皆さんもよくご存知のと

Vol.20
ジュニア
育成

子どもがゴルフを辞めないバックアップを



り、ゴルフはフィジカルな面だけでなくメンタルの強さが鍵を握るスポーツです。英国のR&Aや米国のUSGAなどではジュニアプレーヤーに対する心のケアを行うために専属スタッフの育成に取りかかっていますし、アメリカではプロの登竜門であるNCAA、全米大学体育協会に専門部署までできるほど選手に対して手厚いサポート体制を敷いています。

2020年の東京オリンピック開催に向けて、日本中のジュニアプレーヤーたちが練習に励んでいるこの時期こそ、メンタル面でのサポートにも着目すべきではないでしょうか。ジュニア育成こそが未来のゴルフ界の発展を支える柱となりますが、子どものゴルフとじっくり向き合う寛容性が我々に求められているのかもしれない。

ゴルフビジネスのプロフェッショナル

神野方仁 (じんの・みちひと)



1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary/www.tpi-j.co.jp/diary/index.html

イラスト/ソリマチアキラ